

沖縄全域のデジタルアーカイブ「沖縄おうらい」の開発について（１）

”Okinawa Ohrai” ; Digital Archive in Okinawa Prefecture

加治工 尚子*1 加藤 真由美*2 仲本 實*3 眞喜志 悦子*4

岐阜女子大学による沖縄の地域文化資料の収集・記録は2001年から始まり、沖縄県内各地の有形文化財や無形文化財、自然などについて約2万件のデータを保管してきた。これらの資料は地域文化資料としてデジタルアーカイブ化され、Web上で閲覧できるように整えられた。さらに、QRコードを取り入れたカタログ方式の出版物「沖縄修学旅行おうらい」を刊行し、紙媒体からWebの関連情報へのアクセスを簡単に行えるよう工夫した。

現在、歴史・文化の継承、地域の活性化、未来に向けた文化の創造に役立てられるデジタルアーカイブの開発を目指し、これまでの沖縄地域のデジタルアーカイブの見直しを行っているが、今回は、その基礎資料の構成について整理したので報告する。

<キーワード>デジタルアーカイブ，地域文化，観光，修学旅行

1. はじめに

沖縄をはじめとする多くの地域でデジタルアーカイブの開発が進められているが、資金面の課題をクリアできない場合、そのほとんどは継続されずに打ち切れ活用できない状況に追い込まれている。特に、国県市町村等の補助金や支援で進められてきたものについては、これらの補助金・支援が打ち切られると同時に多くのデジタルアーカイブも利用できなくなってしまうという問題を抱えている。いくらデジタルアーカイブが地域の知の拠点として地方、国内、海外への情報発信と文化の創造、未来への伝承の力を持っているとしても、短期間しか使えないようなものでは、学術、産業、観光、教育的にも大きな損失になりかねない。

このため、岐阜女子大学では「継続性」を考慮しつつ様々な団体等の協力を得ながら、2001年から沖縄の地域文化資料、自然、産業等のデジタル資料の収集とアーカイブの開発を進めてきた。

2. 沖縄デジタルアーカイブの開発

2009年頃までに集められた沖縄の地域資料は、

主として岐阜在住の学生を中心に進められデータベース化された。その後、2010年頃からは岐阜女子大学沖縄サテライト校の学生や院生を中心とした活動が活発になり、沖縄在住者の手によって取材が行われるようになっていった。人材、機会、機材等の充実を機に、地域資料のデジタルデータ量が一挙に膨らんでいくことになる。内容としては、対象物の静止画や動画のほか、オーラルヒストリーの収録も積極的に行っていた。これらの成果の多くは学生の卒業論文としてまとめられ、「教育利用」を考慮して構成されたデジタルアーカイブが作成され、蓄積されていった。

このように、グスクやシーサーなどといったテーマごとに構成された地域資料の蓄積は、沖縄修学旅行「おうらい」の開発へとつながっていく。沖縄を訪れる修学旅行生向けの事前学習資料が不足しているとの声を受け、これまでの収集資料を提供すべく、「観光利用」を考慮した資料の構成が検討された。提供方法は、紙媒体の冊子とデジタルの利点を活かしたWebコンテンツの2つで、下の図1に示すようにQRコードを利用して簡単にアクセスできるように工夫した。2012年から毎年1万4千冊の提供を開始し、現在までに約6万件の利用につながっている。

*1 KAJIKU, Naoko *2 KATOH, Mayumi *3 NAKAMOTO, Minoru

*4 MAKISHI, Etsuko 岐阜女子大学

3. 沖縄修学旅行「おうらい」の構成

これまでも利用観点の違いから沖縄の地域資料についてのデジタルアーカイブ構成の検討を行ってきたが、今回は、将来にわたり利用可能なデジタルアーカイブの開発を考慮し、沖縄県全域のデジタルアーカイブの見直しと開発を進めることとした。現在提供しているコンテンツをまとめたのが表1である。また、構成例を参考資料として示した。表1からは、地域的な偏りや分野の再検討が必要だと思われる項目が浮かんできた。

例えば、地域の沖縄本島「北部」と「離島」、カテゴリーの「自然」の資料が足りていない。観光で訪れる目的の一つに沖縄の豊かな自然があげられることが多いため、沖縄本島北部の森や海などといった資料の収集は欠かせない。また、自然は季節ごとに見せる顔が異なるため、適時収集しておき、Webでの提供を検討する。その他、教育利用の面からも記録しておきたい対象がいくつか候補としてあがってきたため、今後の課題としたい。

沖縄修学旅行「おうらい」 2014年度	地域・位置				カテゴリー					
	北部	中部	南部	離島	自然	文化	歴史	産業	生活	その他
1. 観光資源	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
(1) 自然資源	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
(2) 文化資源	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
(3) 産業資源	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
(4) 生活資源	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
(5) その他	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2. 自然資源	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
(1) 自然資源	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
(2) 文化資源	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
(3) 産業資源	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
(4) 生活資源	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
(5) その他	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
3. 文化資源	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
(1) 文化資源	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
(2) 文化資源	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
(3) 文化資源	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
(4) 文化資源	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
(5) 文化資源	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
4. 産業資源	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
(1) 産業資源	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
(2) 産業資源	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
(3) 産業資源	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
(4) 産業資源	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
(5) 産業資源	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
5. 生活資源	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
(1) 生活資源	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
(2) 生活資源	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
(3) 生活資源	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
(4) 生活資源	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
(5) 生活資源	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

表1 「沖縄修学旅行 おうらい」の項目一覧 (抜粋)



図1 「沖縄修学旅行 おうらい」の提供イメージ

観光施設

1 沖縄美ら海水族館【国営沖縄記念公園(海洋博公園)】(本部町)

沖縄本島北西部にある、国営沖縄記念公園(海洋博公園)内の水族館。沖縄近海に生息する生き物を見ることができる。



① 沖縄美ら海水族館入口前



② 黒潮の海 ジンベエザメとナンヨウマンタ



③ 熱帯魚の海 ハマクマノミ

2 国際通り (那覇市)

那覇市の県庁前交差点から安里三叉路にかけての約 1.6km (1マイル) の通り。平和通り、牧志公設市場が隣接する。



① 国際通り



② 平和通り



③ 第一牧志公設市場 色鮮やかな魚

3 道の駅かでな (嘉手納町)

米軍嘉手納基地の隣にある道の駅。展望場からは嘉手納町・沖縄市・北谷町にまたがる嘉手納飛行場が一望できる。



① 道の駅かでな外観



② ③ 屋上展望台からみた嘉手納空軍基地 (Kadena Air Base)



4 玉泉洞【おきなわワールド内】(南城市)

玉泉洞は鍾乳洞の数が 100 万本以上で国内最多、全長 5 千メートルで国内最大級といわれる天然記念物。



① ② ③ 玉泉洞内の様子

平和への願い

1 平和祈念公園（糸満市）

沖縄戦終焉の地である糸満市摩文仁にある公園。沖縄戦の写真や遺品などを展示した沖縄県平和祈念資料館、沖縄戦で亡くなられた人々（外国人を含む）の氏名を刻んだ平和の礎、鎮魂と永遠の平和を祈る沖縄平和祈念堂などがある。



①平和の礎と沖縄県平和祈念資料館 ②平和の丘(手前)と摩文仁の丘(奥) ③平和の広場の中央に灯された「平和の灯」

2 ひめゆりの塔・ひめゆり平和祈念資料館（糸満市）

沖縄戦末期に沖縄陸軍病院第三外科が置かれた壕の跡に建つ慰霊碑。名称は学徒隊として従軍していたひめゆり学徒隊にちなんでつけられた。



①ひめゆり平和祈念資料館と慰霊碑 ②ひめゆりの塔 ③陸軍病院第三外科壕

3 旧海軍司令部壕（豊見城市）

太平洋戦争において最後の戦場となった沖縄戦で、日本海軍沖縄方面根拠地隊司令部のあった場所。昭和20年(1945年)6月13日午前1時頃、司令官大田實をはじめ多くの将兵や軍に召集された住民が、この地で最期を遂げた。



①旧海軍司令部壕内 手榴弾による自決の跡 ②旧海軍司令部壕への入口 ③ビジターホールの展示

4 戦中・戦後の子どもたちの視点からのオーラルヒストリー

戦中・戦後に小学生であった方々が、自分の体験を通じて、戦争をどのように「見て」「受け止め」「考えたか」、子どもの視点で、お話しして下さいました。



①山里栄昭氏



①仲本實氏
②クラシंगाマの自然洞窟
③山田小学校

1. 山里栄昭先生の生い立ち
2. 大浜小学校の生活
3. 八重山中学校の頃
4. 日常生活・日課
5. 苦い思い出
6. 小学校の運動会・遊び
7. 当時の食生活について
8. 子どもの楽しみ

1. 昭和13年～15年頃の生活
2. 戦争近づく
3. 最初の爆音
4. 再び山田国民学校へ
5. 昭和二十年地上戦争始まる
6. 4月1日米軍上陸
7. 家族は難民収容所へ
8. 山中での暮らし
9. 米兵の態度がだんだん陰悪になる
10. 石川難民収容所へ
11. 石川難民収容所と終戦

沖縄の世界遺産

1 今帰仁城跡（今帰仁村）

三山時代の北山を治めた王の居城跡で正確な築城は不明だが、13世紀ごろだと伝えられている。城を囲む石垣は地形に沿って曲線を描くように積まれている。1609年、薩摩藩の攻撃により焼失した。2000年には、「琉球王国のグスク及び関連遺産群」として世界遺産リストに登録された。御嶽や桜の名所としても有名である。



①志慶真門郭



②平郎門から大庭へ続く石畳



③平郎門

2 座喜味城跡（読谷村）

琉球王国の統一に際して活躍し築城家としても名高い護佐丸（ごさまる）により、15世紀初頭に築かれたとされている。外郭と内郭にあるアーチ門は県内で最も古いものと推定されている。



①城壁とアーチ門



②アーチ門内部



③座喜味城から見た東シナ海

3 勝連城跡（うるま市）

勝連半島の南部の丘陵に位置し、12～13世紀頃に築城したとされている城跡。歴代の城主による海外貿易で繁栄をみた。最後の城主である阿麻和利（あまわり）が有名。阿麻和利は、その人望から民衆に推されてクーデターを起こし、10代目の城主になったと伝えられている。



①勝連城跡外観



②二の曲輪 柱の礎石



③勝連城城壁からみた中城湾



④阿麻和利組踊「二童敵討」より

4 中城城跡（北中城村）

沖縄県中部の中城湾にそった高台上にあり、沖縄戦の戦禍をまぬがれ県内で最もその原型をとどめている城跡である。東に太平洋、西に東シナ海を眺望できる。国王の命により、護佐丸（ごさまる）が座喜味城から移り住み、城壁の増築をしたと言われている。



①中城城跡 正門



②南の郭 雨乞いの御嶽



③二の郭 城壁



④護佐丸の息子 鶴松と亀千代組踊「二童敵討」より

5 首里城跡〔国営沖縄記念公園（首里城公園）〕（那覇市）

那覇市首里の丘陵地帯に立地。尚巴志（しょうはし）が琉球を統一した 1429 年から琉球処分の行われた 1879 年までの 450 年間、歴代の琉球国王の居城および政治・行政、宗教、文化の拠点であった。沖縄戦によりほぼ全焼したが、その後徐々に復元し、現在に至る。



①守礼門



②首里森御嶽



③首里城正殿と御庭

6 園比屋武御嶽石門（那覇市）

首里城の守礼門脇にあり、国王が出御の際に、道中の安泰を祈願した御嶽。沖縄戦により大破したが、1957 年に復元された。



①園比屋武御嶽石門

7 玉陵（那覇市）

1501 年、尚真王によって築かれた第二尚氏王統の陵墓。沖縄戦で大きな被害を受けたが、その後復元し、現在に至る。



①玉陵

②東室

③玉陵の石製欄干

8 識名園（那覇市）

1799 年に造営された琉球王家最大の別邸を復元したもの。国王一家の保養や冊封使の接待の場所等として利用された。



①御殿と回遊式庭園

9 斎場御嶽（南城市）

国始めの七御嶽の一つといわれる最高の聖地。最高神女であった聞得大君の就任の儀式が行われた場所であり、琉球王国の国家的な祭祀の場でもあった。



①寄満

②三角岩

10 首里城の復元に関する講演・久米村のオーラルヒストリー

首里城の復元に関する講演や久米村についてのオーラルヒストリーを記録した。



講演「首里城の復元と沖縄の文化」
高良倉吉氏（琉球大学名誉教授）



オーラルヒストリー「久米村の歴史」
具志堅以德氏



①至聖門
②久米村発祥地碑

中国から渡った先祖が私のところに、私たちは金姓です。蔡、金、梁、林、鄭といった、最初にきた五姓のうちの1人ですが、古い方です。それで、久米では今流に言う久米系の旧系になるんです、五姓は。約 600 年ぐらい前になります。

これは琉球からの要請で派遣されてきたということになっております。久米では、これが士族の上でも上級になるわけです。あとは普通の士族ですね。そういうのが特別な待遇を受けて、官職につくのは近世は国家試験制度で、それに受からんと公的な役にはつかなかったようです（略）。

—オーラルヒストリーより（一部抜粋）—

沖縄の生活文化

- 1 衣 沖縄の染物・織物は、14～16世紀の間に中国や東南アジアなどから技法を学び、その後首里王府の保護を受けて発展を遂げた。



①芭蕉布



②花織



③緋



④ミンサー



⑤紅型



- 2 食 沖縄の食文化は、王朝時代に最高のもてなし料理とされていた料理の数々が、時代とともに一般の人々の間に広まりを見せ、現代へと息づいている。



①東道盆(トゥンダーブン)



②ラフテー(豚角煮)



③食材 [紅芋・チマグ・ゴーヤー・海ぶどう]



④菓子[サーターアンダギー・黒糖・チンビン・ちんすこう]



⑤果物[シークワーサー・スナックパイ・ドラゴンフルーツ・マンゴー]

- 3 住 沖縄の伝統的な住まいは、中国と日本の両方の文化の影響を受けた沖縄独特の建築様式となっているが、同時に沖縄の気候風土に大きく影響を受けている。



①旧仲宗根家住宅(琉球村)



②高倉とウフヤ(中村家住宅)



③サンゴ石の石垣(竹富島)

沖縄の自然



①万座毛(恩納村)



②古宇利島と古宇利大橋(今帰仁村)



③ヒルギ [マングローブ]

沖縄の伝統文化

1 琉球舞踊

琉球舞踊は神遊びの舞いと民間の娯楽の踊りから発達した。琉球舞踊には、中国からの使節団を歓迎するための「御冠船踊り」がその起源とされる宮廷舞踊(古典舞踊)と、廃藩置県後に古典舞踊を元に発展した雑踊り、沖縄各地の村落で伝承されてきた民俗芸能などがある。



①かぎやで風



②加那コ一天川



③講演「沖縄の伝統文化を学ぶ」
大城 學 氏 (琉球大学)

2 組踊

舞踊・音楽・台詞の要素から構成された沖縄独特の歌舞劇。1972年に沖縄の日本復帰と同時に国の重要無形文化財に指定された。2010年には組踊は国際連合教育科学文化機関(ユネスコ)の無形文化遺産保護条約に基づく「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」に記載された。



①② 組踊「二童敵討」(護佐丸の遺児が親の仇である阿麻和利を討つ仇討もの)



③講演「沖縄の組踊」 宮里祐光氏

3 エイサー

お盆の時期に現世に戻ってくる祖先の霊を送迎するために踊られる伝統芸能。主に、旗頭、太鼓踊、手踊、チョンダラー、地謡で構成され、若者たちが踊りながら地区の道を練り歩く。約400年前に福島県いわき市出身の袋中上人が伝えた念仏踊りが沖縄のエイサーの源流であるといわれる。



①宜野湾市青年エイサー祭り



②平敷屋青年エイサーのタバ



③オーラルヒストリー「沖縄エイサーの歴史」
宜保榮治郎氏

4 獅子舞

沖縄では、獅子舞は悪霊を祓い、弥勒世(ミルキュー)を招来し、五穀豊穡や地域の繁栄をもたらすといわれ、古くから沖縄各地で受け継がれている。



①②宜野湾市普天間 獅子舞(字普天間郷友会)



③獅子舞獅子頭(首里汀良町獅子舞保存会)

5 琉球音楽

琉球音楽は、古謡などの祭祀芸能から発達し、14世紀の三線伝来により大きな影響を受けた。古典音楽は王府の庇護のもと琉球舞踊や組踊と結びついて発展。歌三線を中心として琴、笛、胡弓、太鼓などの楽器と併せて演奏される。三線は14～15世紀頃に中国から伝わり、その後改良が加えられ現在の形になったといわれている。



①城間盛久氏の三線演奏



②三線の楽譜「野村流工工四 上巻」



③三線の楽譜「野村流工工四 上巻」かざやで風節

6 沖縄空手

起源は諸説あるが、琉球の古武術であった「手(ていー)」が、中国拳法や日本武術の影響を受けながら発達してきたものとされており、拳足による打撃技を特徴とする。



①壹百零八手(スーパーリンペイ, ペッチューリン) 東恩納盛男 十段



②三戦 (サンチン) 蔵元雅一 六段 東恩納盛男 十段



③三戦 (サンチン) 蔵元雅一 六段 ※段位は撮影時のもの

7 わらべ歌

こどもが遊びながら歌うなどして、昔から歌い継がれてきた歌。地域のこぼで歌われ、自然や歴史・文化などが反映されている。



①毬つき歌(大宜味村喜如嘉)

8 年中行事【爬竜船(はりゅうせん)競漕】

ハーリーは、沖縄県内各地の海や漁港で行われる爬竜船(はりゅうせん)競漕やその行事。地域によって「ハーリー」「ハーレー」など呼び名は異なる。海の神事として、無病息災、航海安全、豊漁などを祈願する。旧暦の5月4日に行うところが多い。



①糸満ハーレー(糸満市)

沖縄の産業

1 農業

沖縄県では亜熱帯気候のため年間を通して比較的温暖で農業が盛んである。その亜熱帯の気候を生かし、サトウキビ、葉タバコなどの工芸作物や、花き、野菜、果物、肉用牛、豚などの生産が展開されている。



①サトウキビ



②砂糖車(琉球村)



③サトウキビの圧搾機

2 水産業

沖縄県は、日本の西南端に位置し、亜熱帯海域に属し、黒潮本流域に点在する島からなり、陸棚域の狭い海底地形となっている。このような海域特性などにより、サンゴ礁漁場、ソネ(海底岩礁)漁場及び黒潮の影響による回遊魚(マグロ等)の漁場が形成される。サンゴ礁沿岸域ではモズク、クルマエビなどの養殖が行われている。



①漁港



②市場のクルマエビとハリセンボン



③マグロの競りの様子

3 工芸

焼物(ヤチムン)

沖縄の陶器は、南方系・中国系・朝鮮系・薩摩系の影響を受け沖縄の風土の中で発達してきた。水甕や酒器、食器など生活に必要な日用品から絵付けを施した華麗な作品まで作られるようになった。壺屋焼は沖縄の代表的な陶器として知られている。



①琉球焼(いとまん窯)

②シーサー(壺屋)

③のぼり窯(読谷村)

琉球漆器

琉球の漆器は、海外交易の盛んな14世紀～15世紀の頃から始まり、その技術、芸術性が高く評価され、献上品としてまた貿易品として最も喜ばれた品物の一つである。立体的な浮彫表現である「堆錦」技法は、中国の堆朱の技法からヒントを得て、沖縄独特の加飾法として考案された。



①螺鈿細工 なつめ

②琉球漆器

③加飾作業

④技法[堆錦]

琉球ガラス

沖縄のガラス工芸のはじまりは明治の中頃といわれている。戦後は米軍施設から出る大量の廃瓶を利用していたが、現在は原料ガラスを使う工房も増えている。手吹きのため色や形が微妙に違い、素朴な味わいと温かみを感じられる。



①③琉球ガラス(おきなわワールド) ②製作工程(琉球ガラス村)

織物

織物は、14～16世紀の間に中国や東南アジアなどから技法を学び、その後首里王府の保護を受けて発展を遂げた。芭蕉布、花織、緋、ミンサーなど多くの種類がある。



①機織りの様子

②機織り機

③シャトル・杼(ひ)